

庄武孝義, 野澤 謙: 下北のニホンザルに高頻度に見出された変異型ヘモグロビン, Hb Izu (*Macaca*) $\beta 83$ Gly-Cy SH. 第29回プリマーテス研究会(1985)。

- 4) 峰澤 満, 藤原 徹: クチヒゲタマリン (*Saguinus mystax*) の同性多胎児間の白血球キメラ現象。第29回プリマーテス研究会(1985)。

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大沢秀行・森 明雄

西アフリカ・カメルーン国の南部熱帯多雨林において1979年より地上性のマンドリルの調査が採食生態学的観点を中心に継続中であり, 1982年からは同所に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。さらに1983年からは同国北部の乾燥サバンナにおいてパタスザルおよびベルベットザルの調査も, 草原適応の観点から行われており, これらの相互比較によって各種の異なる環境への適応様式が明らかにされつつある。

- 2) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり, 詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。一方, 霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され, 各社会階層との関連において追及されている。また屋久島永田地域では野生群において採食行動を通じた個体間関係と社会構造・個体群動態の究明が進められている。幸島群においては, 秋期及び冬期に採食をめぐる社会関係に関する研究を行った。この研究を手掛かりに, 幸島群で行ってきた個体の体重変動の継続調査の結果の分析を進めている。

- 3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

- 1) 非常勤講師

杉山幸丸

ハヌマン・ランゲールで最初に確認された野生動物(哺乳類)社会における種内子殺しの近因と遠因, その相互関係を, 野外調査を交えながら理論的に考察している。

- 4) 西アフリカチンパンジーの行動生態学的研究

杉山幸丸

西アフリカ・ギニアにおける野生個体群の現地調査を1976年から続け, 全個体識別による出生・死亡・消失・移出入等の個体群動態の長期的把握を進める一方, 道具使用・捕食・あいさつ等のチンパンジーの特異的行動とその変化を追跡している。さらにカメルーンにおいても, 痕跡による道具使用の調査を開始した。

- 5) ニホンザル幸島群における文化的行動の研究

河合雅雄

幸島の群れにみられるイモ洗いなどの文化的行動は, 給餌を極力抑さえたことから十数年中断していたが, この種の研究を再開した。獲得行動の持続, 習得過程, 行動のバリエーション, 新しい行動の開発等について年齢, 血縁関係, ステータスを基に分析を進めている。

総 説

- 1) 河合雅雄(1984): サルからヒトへ〈8〉—人類へのかけ橋。創造の世界, 49, 148-171.
- 2) 河合雅雄(1984): サルからヒトへ〈第Ⅱ部-1〉 創造の世界, 51, 146-163.
- 3) 河合雅雄(1984): サルからヒトへ〈第Ⅱ部-2〉 創造の世界, 52, 166-195.
- 4) 河合雅雄(1984): サルからヒトへ〈第Ⅱ部-3〉 創造の世界, 53, 158-177.
- 5) 河合雅雄(1984): 人類進化のかくれ里—ゲダラヒヒの社会, 348 pp. 平凡社
- 6) 伊谷純一郎, 市川光雄, 掛谷 誠, 河合雅雄, 西田利貞, 米山俊道(1984): (座談会) 霊長類学, 生態人類学, 人類進化論。季刊人類学, 15(4), 3-56.
- 7) 河合雅雄編(1984): 霊長類学への招待。276 pp. 小学館。
- 8) 河合雅雄編(1985): アフリカからの発想。214 pp. 小学館。
- 9) 杉山幸丸(1984): 育てることと飼育すること。ライフサイエンス, 11(7): 16-22.

- 10) 杉山幸丸(1984): 霊長類の行動と社会構造。河合雅雄編“霊長類学への招待”: 77-122. 小学館。
- 11) 杉山幸丸(1985): チンパンジーの輸入と動物実験研究 科学, 55: 127-130.

論文

- 1) Sugiyama, Y. (1984): Population dynamics of wild chimpanzees at Bossou, Guinea, between 1976 and 1983. *Primates*. 25: 391-400.
- 2) Sugiyama, Y. (1984): Some aspects of infanticide and intermale competition among langurs, *Presbytis entellus*, at Dharwar, India. *Primates*; 25: 423-432.
- 3) Sugiyama, Y. (1984): Proximate factors of infanticide among langurs at Dharwar. In: Hausfater, G. and Hrdy, S. B. eds. *Infanticide: Comparative and Evolutionary Perspectives*: 311-314. Aldine. New York.
- 4) Sugiyama, Y. (1984): Recent advances in the male and female ranking order in the Japanese monkey. In: Roonwal, M. L., Mohnot, S. M. and Rathore, N. S. eds. *Current Primate Researches*: 417-422. Jodhpur University. Jodhpur.
- 5) Mori, A. (1984): An ethological study of pygmy chimpanzees in Wamba, Zaire—A comparison with chimpanzees. *Primates*. 25(3): 255-278.
- 6) Hoshino, J., Mori, A., Kudo, H. and Kawai, M. (1984): Preliminary report on the grouping of mandrills (*Mandrillus sphinx*) in Cameroon. *Primates*. 25(3): 295-307

学会発表

- 1) 杉山幸丸: ギニア・ボッソウにおけるチンパンジーの個体群動態。第31回日本生態学会, 東京(1984)。
- 2) 森 明雄: 行動学的に見たビグミーチンパンジー社会の系譜。第29回プリマーテス研究会。(1985)。

生理研究部門

大島 清・目片文夫・林 基治・野崎眞澄・清水慶子¹⁾

研究概要

- 1) マカクザル胎児の感覚系発達に関する生理学的研究

大島 清・清水慶子

外部の音声は子宮内に到達することは、すでに音感度マイクロフォンにて証明済みだが、次に聴性誘発反応が、胎生日数によってどのように変化してゆくかを、現在は、出産直前及び妊娠120日前後の胎児について検討中である。妊娠120日の胎児では、出産直前の胎児ほど著明な誘発反応は認められないが、それでも3〜5峰の山を持つ反応が見られ、この胎生時期にすでに胎児は聴性能を有することは明らかである。今後は、更に80日、60日胎生について追試する。

こういった聴覚テストを皮切りにして、視覚あるいは皮膚感覚反応の発達についても追究してゆきたい。これらの生理学的実験を援用するためにBスコープ、胎児心電計などを用いている。

- 2) 血管平滑筋の電気生理学的研究

目片文夫

(i)血管平滑筋は一般には活動電位を発生させない。これはこの筋細胞が刺激—応答連関において速い反応を示す必要性がないことに対応している。これまで微小電極法により一個の細胞として、この筋細胞の電気的性質をしらべてきたが、今後はパッチクランプ法によりこの細胞のイオンチャンネルについてしらべ、この細胞膜のもつ特異性、特に活動電位を欠く点について明らかにする。

(ii)冠状血管平滑筋の神経支配は動物種間により大きく異なる。そこでヒトに類縁的に最も近いサル(主にニホンザルを使い)のこの組織の神経支配について微小電極法によりしらべる。

- 3) 神経ペプチドの個体発生に関する研究

林 基治

マカク属サル大脳皮質におけるVIP, ソマトスタチン, P物質等の神経ペプチドの発現機序を、各ペプチドに対する特異ラジオイムノアッセイ法で解析している。本年は、胎生期120日ですでに3種のペプチドは皮質内に同定される事、満期に

- 1) 教務職員